

## 山口県医師会

山口県医師会は、県民の皆さんのホームドクターとして、気軽に相談していただくとともに、健康づくりに役立つ活動を行っています。

健康づくりに関する主な活動を紹介します。

健康づくりに関しては、妊産婦・乳幼児保健、「学校保健」「成人・高齢者保健」「産業保健」の4つの分野で活動しています。

妊産婦・乳幼児保健では、県内のどこでも定期の予防接種が受けられるように計画しています。

また、妊婦さんの育児不安の解消を図るため、出産前に産婦人科の先生が小児科の先生を紹介する制度の構築や、休日・夜間における小児救急医療体制の充実にも取り組んでいます。

学校保健では、腎臓・心臓検診後、医師会と学校医が連携をとりながら児童生徒が安全に学校生活を送れるような指導体制の確立に努めています。



成人・高齢者保健では、高齢者のインフルエンザ予防接種の広域

化の実現、生活習慣病の予防対策の推進、さらに健康教育テキストの発行も行っています。

その他、皆さんの関心の深いところでは、花粉測定を行い、テレビ・新聞等を通じて花粉情報を提供しています。また介護福祉部門並びに先進医療の研究についても、日夜研鑽に励んでいます。

これからも、県民の皆さんにとって身近で、健康づくりに役立つ医師会でありたいと願っています。

医師会ホームページも是非ご利用ください。

社団法人 山口県医師会

濱本 史明



山口県医師会ホームページ  
<http://www.yamaguchi.med.or.jp>

# 団体紹介

こちらでは毎回健康やまぐち21県民会議参画機関の活動についてご紹介いたします。

## 山口県薬剤師会

病気の治療や予防のため、薬は私たちの生活に欠かせないものです。

しかし、薬は副作用という危険性を併せ持っています。

こうした薬の製造・流通・使用のすべての場所に、薬学を基礎とした専門的な立場から関わっているのが薬剤師です。

山口県薬剤師会では、身近な薬についての疑問にお答えするため、お近くの薬局や薬剤師をご利用いただく運動を行っています。

もし皆さんが薬について質問するとしたら、何を質問しますか。「効き目」についてですか。飲み方についてですか。この頃、新聞などで問題になっている「副作用」のことですか。意外と何を質問していいかわからなかったりして、でも、薬のことって案外知っているようで知らないものなのです。

山口県薬剤師会

では、今年の10月20日に無料電話相談窓口「1日薬の相談室」を行います。

当日は専用回線

を4本用意して、たくさんのお問い合わせをいただきました。

また、薬剤師会では、いつでもご利用いただけるように、ホームページ上に「薬の相談室」や「薬との上手な付き合い方」というコーナーを設けています。

安全に薬を使っていたくため、どうか薬剤師にご相談ください。

社団法人 山口県薬剤師会

森本 佳枝



山口県薬剤師会ホームページ  
<http://www.yama-yaku.or.jp>

あなたの健康づくり  
かな  
人生

このコーナーでは、あなたの健康づくりを応援する団体の活動を紹介します。

## 「たばこ吸ったらあかん」

長門健康福祉センター

保健師 岸田由起子

「おばちゃん、何しに来たん？」  
「紙芝居するんよ、後でするから待っててね。」不思議そうな顔で、のぞき込む子どもたち。ホールにお行儀よく並んだ園児たちのきらきらした眼差しに迎えられ、保育園で初めての防煙教育を行った。

これまで、小中学校での防煙教育は何度か経験してきた。限られた時間では、知識の提供が主となり、自己決定を促す内容にはほど遠いものを感じる。啓発は繰り返し、巻き返し、いつでも、どこでもが大切だ。

健康やまぐち21圏域計画策定母子部会でも、幼児期からの健康教育



育の重要性が上げられていく。保育園も協力的で、日程調整が比較的容易なことから、紙芝居を使った教育を試みた。

紙芝居は、健康づくりセンターから借用し、4〜5歳児が理解できるようにシナリオを書き換え、試行を繰り返した。子どもたちは、思いのほか熱心に聞いてくれ、実施後の質問にも、正しい答えが返ってきた。

たばこを吸うと、やめられなくなることで、病気になるって、入院や手術をすると、みんなが悲しんだり、心配したりすることを伝えた。自分を大切にすることや、命の尊さを、子どもたちは感じ取ってくれたでしょう。



応援します!!

# 豊



## エッセイ

こちらでは毎回県下各地の健康福祉センターや保健センターで働く人たちのエッセイをご紹介します。

### 「青い鳥に向かって」

むつみ村

保健師 藤田 直子

「村が元気であれば、住民の元気、ひいては住民の健康につながる。地域の元気は、住民同士のふれあい・関わり合いから始まる。」

むつみ村では、もっとみんなが元気になるう！という願いをもつ人たちが集まって健康づくり計画を作成中です。

行政主導ではなく住民が主体となって、県外の活気ある地域の視察をしたり、村内の各団体や個人から意見を聞いて歩いたりしました。その中に、「田舎でも近所つきあい、祭りが少なくなっている。」という意見があり、その意見をもとに「リサイクル工房・ひまわり」をオープンすることになりました。併せて「青い鳥フォーラム」と題し、ヘル



スプロモーションの第一人者である順天堂大学の島内憲夫先生の講演を始めとし、地元出身の代表者の事業成功者、元気な町代表の方、住民代表者のパネルディスカッションを開催しました。

市町村合併を目前に控え、今しできないことを一歩一歩ですが進めているところです。